

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム本原一丁目
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	〒852-8133 長崎市本原町13番5号
記入者名 （管理者）	竹口津八子
記入日	平成20年12月20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	①利用者本位「本人様の好みの暮らし方を見つけよう」②ご家族の想い「コミュニケーションを充分に行い想いに沿うようにしよう」③地域とのつながり「地域の方との触れ合い関係を大切にしていこう」は今年度の重点課題。日々のケアの中で取り組んでいる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	「病期のどの段階にあるか」往診時、必要に応じ、主治医の指導を仰ぐ事ができる。「この方にとっての普通の生活とは？」センサー方式に取り組み、本人様の「声にならない要望」を推し測り、本人様の希望を発見する事に努めている。「専門的援助」研修や医師の指導の下、個別ケアに必要な知識と技術の習得に励んでいる所。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	隣近所とのお付き合いはまだまだ、十分とはいえない状況との認識。もっと交流が深まるよう努力したい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後は地域のボランティアや、保育園、学生との交流ができればと考えている。認知症について、幼少から「知る」事が大事だと聞く、啓発活動の一つとして取り組めればと考えている。地域の運動会見学も計画はあったが、実行できなかった。

グループホーム本原一丁目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームやデイサービス等の見学訪問がある。また運営推進会議、プレス回覧等により地域の方に、介護のプロが常駐している場所として、協力できる事はないか働きかけている。	○	地域に根ざして、認知症ケアサポーターとしての役割を発揮したいと思っているが具体的な活動等については、今後、地域包括支援センター等のご指導を仰ぎながら、取り組んでいきたい課題の一つである。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の結果を参考に、改善に取り組んでいる。前年度評価においての「指摘項目」の改善を図ると共に、現在を「振り返り」評価頂いた良い点が継続できているか、新たに「改善項目」が発生していないか、点検を行い、全スタッフ各自で自己評価を実施、意見を出し合っている。	○	自己評価に全スタッフで取り組み、自施設の「できている点」と「改善が必要な点」を明らかにし、改善できるよう努力していく。「地域に根ざした良質な施設」となるよう実力をつけていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度第一回運営推進会議において、当施設の本年度「活動方針」と「活動計画」をお示しし、二ヶ月に一度、計画に基づく実施内容(行事、研修)と現状報告(入居者のご様子、スタッフ異動、入退去情報を含め)を行なうと共に、毎回、議案を作成し当該内容について活発な意見の交換がなされている。貴重なご意見を沢山頂けている。	○	地域密着型サービス事業所として、外部の方の目を通して透明で健全な運営を図り、「信頼できる施設」への成長を目指している。少なくとも、二ヶ月に一度は、運営推進会議を通して、まず、「施設の中を見て頂ける」事に意義を感じている。会議内容はスタッフ会議において全スタッフに報告している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の案内を直接手渡ししたり、包括支援センターの職員の方が返信を施設へ直接お届け下さるなど、リビングへ足を運んで下さっており、日常的に入居者のご様子を「ご覧頂けている」との認識を持っている。	○	「市町村担当者との行き来する機会」とは、具体的にどのようなものがあるか、包括支援センターの方にご指導を仰ぎたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	マニュアルに関係資料を綴じ、会議の都度、折に触れ繰り返し学習するようにしている。利用者、家族等については、施設内に掲示し情報提供行なっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修において学習し毎月の会議の際、虐待防止自主点検項目表を使い虐待防止の徹底に努めている。ケアプランにおけるモニタリングにおいても、「不適切なケア」になっていないかとの意識の下、振り返りを行っている。	○	「不適切なケア」は虐待へのグレーゾーンである、と認識し日々のケアの中で「もしや?」と思う時は、言葉掛けの一つについても、スタッフ同士で注意しあっている。ストレスがたまっていると感じる時は相談しあったりしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が利用者・家族に十分な説明を行い、重要事項説明書に説明、同意確認印を頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、声かけ等を行い、意思疎通がスムーズにいくように心がけている。気になる状態が見受けられた場合は、特に気の合うスタッフが積極的に語りかけ、気持ちを引き出し、結果は管理者への報告、全スタッフでの共有を心がけている。介護相談員の受け入れ態勢はあるが、本年度は実施はない。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「今月のご様子」とプレスを作成し、定期的にご家族へ郵送し、生活状況や職員の移動等報告している。来所の折にはスタッフ、管理者が近況等の報告をするようにしている。心身に変化があった場合(風邪や怪我など)は、その都度、電話や口頭にて報告行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全スタッフで積極的に家族等に働きかけ、意見を引き出せるように勤めている。苦情を処理する為に講ずる措置の概要をリビングに掲示し周知を図り、第三者委員も設置している。不満や要望などは日誌、面談記録に記載し全スタッフで確認しあい、再発防止に努めている。	○	面会や受診送迎の折に触れ、ご家族としての思いを語られ、苦情よりも慰められたり、励まされたりする事の方が多いように感じている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や、定期的にスタッフ会議等で話し合い、意見提案を聴く機会を設けている。本年度においては、運営者、管理者との個人面談の機会も設け、積極的に意見の引き出しに努めている。	○	運営者からは、定期的な往診の際にもスタッフへ働きかけがある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通常は日勤は3名体制だが、行事等の場合は勤務者を多く確保する等考慮している。またご家族の要望等には休憩や勤務の調整等行い対応している。緊急時は管理者が中心になり調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は職員の保有資格条件やスキルアップを考慮するとやむを得ない場合が生じている。異動があった場合は「その方なりの介助の仕方(声の掛け方、触れ方、語りかける表情、タイミング)」を申し合わせ人手が変わる事による「手順の相違」によって混乱を招くことのないよう、ダメージを防ぐことに努めている。	○	入居者の方、個々人に合わせた介助の仕方を全スタッフで共有に努めている。

グループホーム本原一丁目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体で、勉強会を毎月第二水曜日に二水会(法人内)、偶数月の第三水曜日(外部よりの参加者)長寿会セミナーを開催している。当施設内では、本年度活動計画書において研修計画をたて、毎月のスタッフ会議時必要に応じた勉強会行い、資料の回覧学習も行っている。先輩から後輩への指導、新配属の場合は担当者をつけるなどして業務の中でトレーニングしている。外部研修へも数回参加できている。	○	本年度、個人研修計画をたて、スタッフ個々人の研修への希望等の把握、実施への取り組みを開始した所。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入っている。医療法人長寿会清原龍内科主催の研修会を開催し、他のグループホームの職員、管理者も参加し交流の輪を広げている。	○	勉強会など参加すると同業者と接する機会や話を聞ける機会が持てるが、GH同士(入居者を含め)の交流が深まればなおよいとの考えをスタッフは持っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務の希望は極力応じ、時折、食事会や忘年会等で親睦を深めている。また、話し合い、意見等が出来やすい環境づくりに努め、週一回の往診の都度、働きかけがあり、また「思い」が表出しやすいよう配慮し、管理者やスタッフとの個人面談も実施している。	○	スタッフ個々人のストレス解消方法や希望等も把握し実施していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全スタッフの意見を反映し、管理者・スタッフの職務実績等を考慮している。本年度は個人研修計画シートを用いて面談行い、スタッフ個々人より積極的に意見の聴取を行った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談窓口であり、主治医である清原先生を中心に、利用者の生活暦を考慮し、全職員が情報の共有出来、適切なケアができるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	理事長を中心に連絡を常に心がけ、話し合いの機会を増やすように努めている。		

グループホーム本原一丁目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要な援助を見極め、本人、家族、主治医やケアマネージャーと相談しながら進めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	主治医が外来で診察しており、情報は解り易い事が多い。ご家族との面談時、特徴を教えて頂きながら、対人関係や好みの生活スタイル、心身の状況の把握をし、全スタッフ(主治医、看護師を含め)で情報を共有し、今までの生活スタイルなるべく崩さないよう無理強いせず、徐々に馴染めるよう、工夫に努めている。	○	入居後は、スタッフ間、成功例を共有しあい「好みの生活、支援の仕方」の把握に努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、妻、主婦の先輩として、料理の味見をお願いしたり、洗濯物のたたみ方、干し方を教えて頂いたり、挨拶の仕方から嫁姑の付き合い方まで、伝授された裏技は若いスタッフにとって貴重な財産となっている。	○	「死後の世界はあるのか？」の討論会になった際には「人生は楽しまなきゃあー、あなたそんなこと考えてたら、生きるの辛いでしょ？」泣いたり笑ったり、介護するだけでなく本人様から学び、発見させられながら、今後も共に過ごし支えあっていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況を報告して情報の共有化につとめ、特変あれば随時電話にて報告行い、本人様を支える最善の方策を共に考えるように努めている。誕生日等に都合がつけば一緒に参加して頂いたり、面会時におやつ作りを手伝って頂いたり、受診の際は送迎を助け合い、協働しながら関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	在宅中の暮らしぶりや、苦労したこと、楽しかったこと、様々な思いをお話下さるので、その思いに寄り添いながら、「では、今できるよりよい暮らし方とは？」「状態が変化したならば、今後はどう暮らしていきたいか？」等、話し合いをもちながら、双方の幸せを考えた支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の受診支援は行われています。 馴染みの方の面会時には、さりげなく会話の手助けを行っています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う、合わない関係を把握し、席順を決めている。気分のありようを観察し随時、状況に合わせて距離間を保つように配慮している。必要時、さりげなく職員が介入支援するが、特段の事情が発生しない限り、入居者様同士での解決を見守り重視している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時に面会に行ったり、ご家族とお会いした際は近況等お聞きしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず、本人様の希望をお尋ねするようにしている。発語困難な方については、言動や表情を注意深く観察したり、より多くの選択肢の中から選んで頂けるような働きかけに努めている。ご家族にお尋ねすることにより情報が得られることもある。	○	センター方式に取り組み、「本人本位」「原因の究明」「声にならない要望を推し測る」「原因を探り発見し解決する」一連の過程に取り組みを開始している所。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の用紙を活用しながら生活歴の把握に取り組んでいる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、朝夕の申し送りにおいて状態を把握している。月に一回、「今月のご様子」にて定期的に評価、分析の機会がある。ケアプランにおけるモニタリングによって総合的に評価し、日々、状態を業務日誌、ケース記録によって情報の共有できている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間では、些細な変化を見逃さないように努力し、日常的に意見の交換は頻繁にある。医療面では往診時定期的に、変化の都度、主治医、看護師へ報告、指示を仰ぐ。ご家族の意向は面会の折等に繰り返しお尋ねし必要時、プラン検討会行いみんなでプラン作成している。食事については、調理員の方にも意見伺い、食事形態の工夫等実施している。	○	モニタリング表、会議記録、ケアプラン原案作成までの一連作業を暫定的に担当制導入し学習行った。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のスタッフ会議においてモニタリング行い、変化に応じたプラン変更している。一ヶ月～三ヶ月毎、状況に応じ見直しできている。ご本人の要望は毎日のケアの中で推し測り、さりげない会話の中から意向を聴取、面会の都度、ご家族の意見を伺い、定期往診にて医師の判断仰いでいる。	○	現場ケアの中では随時、こまめにケア内容を変更して実情にあったケア提供ができていますが、記録としての書類整備は後回しになっているのが現状である。

グループホーム本原一丁目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の入居者の様子を記入し情報交換につとめている。早急に周知徹底が必要な事項は業務日誌にて共有している。口頭にて気づきや工夫を伝えあい、定期的にスタッフ会議において検討を行い、モニタリング表に記録し計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人のため、入退院が主治医との連携でスムーズに行えている。必要な時に必要なだけ、医療が受けられる体制が整っている。介護スタッフにおいては、観察眼を培い、正確に医療へ状態報告ができるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や警察、消防等協力頂いている。	○	ボランティアの参加はプレスにて呼びかけを行い、どのような地域資源があるかなど、運営推進会議において協力をお願いしている。認知症サポーターの研修を今後、包括支援センター職員より受講予定。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性が生じれば支援して行く体制はある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは職員交流もあり協働体制は整っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	皮膚科の定期往診、主治医による定期往診、必要時受診支援行っている。その他、整形外科、リハビリ、眼科、歯科等、個々に応じて希望の病院に定期的な受診支援を行っている。		

グループホーム本原一丁目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	運営者が認知症専門医であり、認知症に関する診断、治療は充実している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同一法人内の看護師が定期的に往診同行あり、必要時、随時、いつでも相談指示が仰げる体制がある。毎日状態報告行い、日常の健康管理、医療支援できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には積極的に情報提供行い、お見舞い時、医師、看護師等と情報交換につとめている。また主治医の紹介により入院する病院とも連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルの基本方針を作成し、利用開始時説明行い、ご家族の意向、希望を伺い承諾書を貰っている。状態に応じて話し合い行い、重度化した場合は、同一法人内他ユニットへの転居の希望にも対応している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	独自の重度化、ターミナルに関する指針を作成しており、今後の変化に備え検討や準備を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	受け入れ先の担当者と話し合いや情報交換を行い、不安や混乱を最小限にできるよう、家族、職員で工夫し努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛け、立居振る舞いについては、「尊厳の態度」を欠く事のないよう最大の注意を払い、スピーチロック等についても、虐待防止点検表に基づき毎月点検行っている。入職の際、全職員、誓約書を交わし、個人情報取扱方針に基づき、職員の意識向上を図っている。	○	誇りを傷つけないよう、本人様に選択権のある声掛けの仕方はまだまだ努力の必要がある。 4階トイレのドアが壊れており、修理してもまた壊れるを繰り返している。入浴時の脱衣場のドアも調子悪く、見えてしまうことがある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	まず、本人にお尋ねし、意志表示が困難な場合は、なるべく多くの選択肢を準備し一番、心に近いものを選んで頂けるよう、思いや希望が表出できるよう、身振り手振りで伝えたり、表情から推し測ることに努めている。スムーズなコミュニケーションのこつを共有している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は何をしましょうか?」「○日にはどこに行きましょうか?」時の見当識に働きかけながら本人のペースや好みを大事にしながら要望を引き出せるよう働きかけている。好みの発見、要望の発見に努め、申し送りにより共有を図っている。無理強いはいしていない。	○	入居者様のペースを中心に行う努力はしているが、人員手薄な場合は、日にちや時間を延期させて頂く場合も多々ある。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行き付けの美容院にお連れしている。外出が困難な場合は認知症に慣れている美容師の方に来所頂いている。お化粧をされる方もおられるし、身だしなみにもアドバイスをしあったりしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事により献立の工夫をしている。皆さんと一緒におやつ作りを楽しんだりしている。状態に応じた食事形態の工夫、エプロン食器の工夫、食材の説明、料理から話題を膨らませ下ごしらえや盛りつけへの参加を励行している。食べこぼしや飲み込み見守り、介助しながらほぐす、などの工夫をしている。食器洗いされる場合もある。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買物と一緒に出かけおやつやパン等の嗜好品の購入や、好みの生活用品を選んで頂いたりしている。		

グループホーム本原一丁目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを見極め、声かけ等で、トイレ誘導行っている。失禁ある場合は、状態に応じて必要な物品の使用をさりげなく、お勧めしている。	○	現在、1名、失禁の対応に困難している方がおられ、全職員で検討しあっている所。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望やタイミングに合わせたり、入浴間隔や体調により入浴の支援を行い、湯の温度、時間等、個々の好みに合わせ入浴を楽しんで頂いている。スムーズに応じて頂けることを職員間で共有している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調や希望、生活習慣に応じて対応している。就寝前に気の合う仲間とテレビ団欒をすることが日課になっている方もおられたり、希望時ソファで横になられたり、自室で休んだり、職員と一緒に休憩室にて休憩したり、自由に過ごすことを支援するよう努めている。	○	ソファで休みたい方が複数重なり、場所が足りなくなる場合が多く、互いに譲り合っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	トランプ、カルタ、オセロなどのゲーム、ゴミ箱作り、食事、おやつ作り、近所のスーパーへの買物など気晴らしが行えている。散歩や運動、ゆっくり傍に居て会話するなど。脱衣場の椅子が気に入られ、1人で過ごされることを好まれる方など、様々に支援している。洗濯物は皆さんでお手伝い頂いている。	○	個別の外出、散歩、運動などはまだまだ充分とはいえない。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方にはお金を所持して頂き、買い物も楽しんで頂いている。孫の面会時にお小遣いを渡したい方などもおられ、支援している。(ご家族の了承のもと)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	美容院へカットに出かけたり、希望により買物に出かけたり、不穏時には外周を散歩するなど日常的に外に出ることに支援に努めている。	○	建物の構造上、狭い空間で人間関係が煮つまりがち、テラスを利用したり、脱衣場、炊事場に椅子を持っていき独りで過ごす時間、ホッと一息つく時間、居室でのんびり過ごす時間、仲の良い相手との憩いの時間を大切にしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食、ドライブの機会を支援している。お誕生日にはご家族と外食支援を行った。お花見、イルミネーションドライブ、ピクニック、行事予定をたてて外出の機会が増えるよう努力している。	○	今後は個別の希望を伺って実行できればと考える。温泉旅行なども検討されたが、今の所、実行できていない。

グループホーム本原一丁目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	宅急便のお礼の電話をかけたり、ご自分でお話できる方には電話を掛けていただいたりしている。ご主人からのお手紙が定期的にある方もおられ、お返事を書くことをお勧めしたりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定しておらず、自由に訪問して頂くようにしている。。来所時にはリビング、自室等、お好きな場所で面談出来るようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・職員は法人内勉強会、外部研修会参加し、管理者が身体拘束廃止委員になって取り組んでいる。毎月、スタッフ会議において点検し、ケアプラン作成時には、拘束しないでいかにリスクを回避するか、意見を出し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵かけによる認知症の方の混乱をまねいたりする事の弊害を理解しており日中は施錠していない。無断離設の発生時、捜索マニュアルを作成し警察、タクシー会社に協力依頼している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	気配り、目配りで様子を把握し、常に、どなたが今、何処にいるかを確認している。夜間は定期巡視している。ケアプラン検討会にて個別にリスクを話し合い、転倒、誤嚥等、安全に配慮している。リビングを離れる場合には職員間でさりげなく、声掛けを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品等は保管場所をきめて目に触れないようにしている。日常生活品は認知症のレベルを考慮してケースバイケースで対応している。裁縫箱などは必要時、お出しするようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット記録に記入して事故に繋がらない様、事故の予測に役立てている。特に夜間に多い転倒にはベット脇にセンサーマットを設置する等、ハード対策も実施している。		

グループホーム本原一丁目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを整備している。窒息等に備え全職員が吸引施行できる。救急救命教室を受講している。	○	急変や事故発生時の応急処置の訓練が充分とはいえない。繰り返しの訓練が必要との認識はある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防局の実地指導で消防訓練(消火、通報、避難)実施している。運営推進会議において議案とし、地域や周辺との連携、協力体制をどうしたらよいかを話し合ったりしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプラン検討会において予測されるリスクについて話し合い、プラン交付時にご家族にも説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインチェック、食事摂取量、排泄チェックを行い、主治医に定期的に状態報告している。日常での様子で異変を察知した場合は、申し送りにて職員間、報告行い、日誌、ケース記録に記録し、経時的にも情報の共有を図っている。異変時は、その都度主治医の指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用されている内服薬について、「お薬情報」で把握し、注意すべき点については、随時、往診時、医師、看護師の指導を受けており往診の都度、薬の効果について確認がある。「往診記録」「業務日誌」「熱計表」に記録することで繰り返し、薬の情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状態を把握し、水分を多く摂る、運動をする等、心がけている。個々にあわせて、便秘時は下剤を服用して頂いている。医療との連携でその方にあう薬を見極めたりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し、口腔内残渣物がないか、口臭、痛みがないか確認しあっている。状態に応じて、口臭予防剤を使用したり、うがいができない方については、最後のお茶、水をしっかり飲んで頂くなどの方法をとっている。必要時歯科受診している。		

グループホーム本原一丁目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、摂取量、水分量を把握し、不足がちである場合は、職員間、申し送り、好みの飲み物をお出ししたり果物を勧めたり、職員が側で対話しながら飲んで頂くなど工夫している。一日の終わりにトータルの水分をチェックし不足している場合は夜勤者へ夜間の水補の引き継ぎを行っている。好きな飲み物を把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は職員も含め全員実施している。感染予防マニュアルを整備し、うがい、手洗いに努めてアルコールや塩素系消毒を使ったりして対応している。咳が出たらマスクを着用して頂いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防に、手洗い、台所用具の消毒、食器乾燥機の使用や新鮮な食材の使用と管理に努めている。関連する情報は母体施設より通知があり、社会状況も把握しながら対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前は駐車スペースになっており狭いが、少しでも親しみやすいように玄関には花や植物を置き明るい雰囲気が出せるように努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや日除け等で眩しさを防ぎ、手摺り設置で安全を確保している。活け花、壁掛け等で季節の移ろいを感じて頂く様にしている。またベランダには季節の花や野菜を植えて、手入れや収穫、観賞して楽しんでいる。公園の樹木は季節を教えてくれるので、ベランダに出て、外の風景を見る機会を大切にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を考慮したり、夏場にはベランダで夕涼みが出来る様に工夫している。それぞれの方の「お気に入りの場所」を把握しており、その日の気分に合わせて居場所の設定や交流の場を工夫している。	○	建物の構造上、狭い空間で人間関係が煮つまりがち、テラスを利用したり、脱衣場、炊事場に椅子を持っていき独りで過ごす時間、ホッと一息つく時間、居室でのんびり過ごす時間、仲の良い相手との憩いの時間を大切にしている。

グループホーム本原一丁目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの筆筒、物品をご持参頂き、落ち着く空間、居心地よい空間になる様に工夫しテレビなどお部屋で楽しんで頂いている。冊子や地域情報誌を差し入れすると喜ばれる方もおられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・空調、温度調節に心がけ健康に快適に生活できるようにしている。本年12月より衛生管理委員会を立ち上げ毎月点検表にて検証するように取組を開始した。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等を利用して、個々人が移動できる工夫をしている。4階リビングにおいては、何とか歩行が可能であるならばなるべく歩いてトイレに行って頂くよう支援し、全盲の方については、馴染んだ配置をなるべく変えないよう努めている。杖、車椅子使用、手引き、二人介助等、状態に合わせて対応している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、風呂場、自分の居室の名札等の設置をして場所の確認が出来るようにしている。見学者の案内をお願いすると職員より上手に各場所を案内し説明下さる方もいらっしゃる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには家庭菜園をつくって栽培、収穫を楽しんだり、涼んだり、日光浴をしたり、干しものをしたり、活用している。自ら窓を開けてベランダへ出て、公園の子供たちを眺めたりされている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム本原一丁目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念に基づき、入居者の方が「病期のどの段階にあられるのか（病名、病状、特徴）」等の見極める能力を養い、必要な知識を深めること。「その方にとっての普通の生活とは何か？（好みの生活スタイル、意向）」等、本人様の声にならない要望を推し量り、寄り添う心をもつこと。それらを併せ持って、初めて『専門的援助』が実践できる、と考えています。『施設の質はスタッフの質』であると言われます。スタッフ一人一人の力量がアップすることが施設の質の向上に繋がり、「入居者様の幸せとして実を結ぶ」と考えています。まだまだ、未熟な私達ですが、「今できる最善のケア」を繰り返し考えていくことで、失敗しながらでも少しずつ成長していくことができる、と信じています。様々な研修に参加して知識を増やすこと、業務を通じてケアプランの一連作業を習得すること、センター方式を活用して「本人様の思い」を見極めることができるようになることが本年度の主な取り組みです。